

世 界 史

(問 題)

2017年度

< H29113412 >

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	<input checked="" type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い
マークを消す時	<input type="radio"/> 良い	<input type="radio"/> 悪い	<input type="radio"/> 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

(例) 3825番⇒

万	千	百	十	一
	3	8	2	5

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

I 中国史の各時代・各王朝の特徴に関して述べたA～Dの文を読み、設問1～9について解答を一つ選び、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

A 後漢王朝は2世紀末の黄巾の乱を機に権威が失墜し、各地に群雄が割拠して、後漢滅亡の大きな要因となった。その中から曹操は黄巾の乱を討って台頭し、袁紹らを破って華北を統一した。しかし赤壁の戦いで孫権・劉備の連合軍に敗れ、江南への進出ははばまれた。その後、曹操は新王朝建設の準備を着々とすすめ、子の曹丕は後漢の献帝の禪譲をうけ、洛陽を都として帝位についた。劉備はその正統性を否定し、(あ)で帝位につき、孫権も建業で帝位についたので、中華世界に三人の皇帝が並び立つことになった。

設問1 三国時代(前後を含む)の歴史に関して、不適切な記述はどれか。

- ① 曹操は兵力の確保・軍糧の補給のため、屯田制を興し、占田・課田法を実施した。
- ② 曹丕が漢を奪う直前に始めた九品中正は、貴族制の成立に重要な役割をはたした。
- ③ 蜀は三国のなかで最も小さく、丞相諸葛亮の没後、魏によって滅ぼされた。
- ④ 西晋の武帝によって呉が滅ぼされ、中国は統一され、三国時代は終焉となった。

設問2 空欄(あ)に入る最も適切な語はどれか。

- ① 漢中
- ② 成都
- ③ 雲南
- ④ 荊州

B 唐の支配システムは、律令制を基礎とし、租庸調制・均田制・府兵制を有機的に組み合わせたものであるが、8世紀前半になると崩れはじめ、安史の乱前後に崩壊する。その過程で門閥貴族は後退し、新興地主層が台頭し、宋代になるとこれを官僚の母体として君主独裁体制が構築される。このような変化は文化面にもあらわれ、古文復興運動がはじまり、儒教の経書の再解釈へ波及していった。このような大きな変化を「唐宋変革」という。

設問3 下線部aに関して、不適切な記述はどれか。

- ① 乱の前、玄宗の信任をえた安祿山は、東北辺の3節度使を兼ねていた。
- ② 乱中より節度使が内地にも置かれ、強大化したので藩鎮とよばれた。
- ③ 乱後、府兵制が廃止され、傭兵制度の募兵制に切り替えられた。
- ④ 乱後、宰相楊炎によって兩税法が施行され、宋・元・明に受け継がれた。

設問4 下線部bに関して述べた文の中で、不適切な記述はどれか。

- ① 韓愈は儒教をたつとび、仏教・道教を排撃した。
- ② 韓愈は同時代の柳宗元と共に古文の復興者とされる。
- ③ 宋学は南宋の朱熹によって大成され、致良知を特色とする。
- ④ 朱熹は四書を重んじたが、四書とは『大学』・『中庸』・『論語』・『孟子』を指す。

C 中国を支配した王朝の中で、とくに北方民族が建国した中国風の王朝を、ドイツ出身のアメリカのある学者は「征服王朝」と呼び、遼、金、元、清がこれに当たるとした。その特徴として、次のような諸点が指摘されている。その国家は北アジアと中国の一部、または全部を支配し、その社会は遊牧・狩猟的社会と農耕社会との複合である。そのため、その統治体制も二元的になる。また彼らは中国文化を取り入れると共に、その固有文化と融合させようとした。文字の創作はその一例である。

設問5 遼(契丹)に関して述べた文の中で、不適切な記述はどれか。

- ① 10世紀初めに唐が滅亡し、耶律阿保機は契丹諸族を統合して建国した。
- ② 「澶淵の盟」は遼・宋両国がこれを守らなかったため、その後も戦争がつづいた。
- ③ 官制において、部族制に基づく北面官、州県制に基づく南面官の区別を設けた。
- ④ キタイの名は中国の代名詞としてヨーロッパまで伝わった。

設問6 金(女真)に関して述べた文の中で、不適切な記述はどれか。

- ① 太祖阿骨打は金を建国し、猛安・謀克制を制定した。
- ② 金は北宋を滅ぼした後、秦嶺・淮河の線を国境に定め、南宋と和議を結んだ。
- ③ 女真文字を制定して民族の国粹文化の保存につとめたが、むしろ中国文化の影響を強く受けた。
- ④ チンギス=ハンは金を滅ぼして華北を領有し、カラコルムに都を建設した。

設問7 開平府で即位し、(い)に遷都したフビライは、国号を大元とし、南宋を滅ぼして中国統一を完成した。空欄(い)に入る最も適切な語はどれか。

- ① 開封
- ② 大都
- ③ 臨安
- ④ 上都

D いわゆる「康熙・乾隆時代」とよばれる約130年間は、清の最盛期である。この時期にその領土は東アジアの大半におよんだ。その統治において、清は漢人に対して異民族支配に対する反感を抱かせないように配慮しつつ、懐柔策と威圧策をあわせ行った。満漢併用制、儒学の振興、大規模な編纂事業などは前者に属する。文字の獄、禁書などは後者に属し、反清的言論はきびしく禁じられた。『四庫全書』の編纂事業も、反清的な書籍を搜索し、禁書に指定する政治的役割があった。

設問8 下線部eの時代の出来事に含まれないものはどれか。

- ① 三藩の乱や鄭氏台湾を平定して、清の統治の基礎を固めた。
- ② ジュンガルを滅ぼし、東トルキスタン全域を征服して、これを「新しい領土」(新疆)と称した。
- ③ イギリスからマカートニーが貿易関係の改善を求めてやってきたが、その交渉は失敗した。
- ④ 欽差大臣に任じられた林則徐は、広東でアヘンの没収・廃棄を強行し、それはイギリスにアヘン戦争の口実を与える結果となった。

設問9 清が創始した文字として満州文字が知られるが、民族文字に関する以下の説明の中で、不適切なものはどれか。

- ① 満州文字はヌルハチの命により、満州語を表記するため、モンゴル文字を基本として作られた。
- ② 西夏文字はタングート語を表記するため西夏で作られ、漢字の影響をうけている。
- ③ 突厥文字は、北方遊牧民の最初期の文字とされ、主に碑文に用いられ、また岩壁などに刻まれた。
- ④ 吐蕃の建国者ソンツェン=ガンボの命で、中国の漢字を導入してチベット文字が作られた。

II 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

イタリア半島の南西に位置するシチリア島は、交通の要衝の地であり、また穀物の生産地でもあったため、古代からさまざまな民族の支配を受けてきた。先史時代には移住してきたシカノス人、シケロイ人が居住していたが、海上交易で活躍したフェニキア人がクレタ文明、ミケーネ文明の衰退を機に、地中海貿易を独占するようになり、シチリアの西部に拠点^①を形成した。次いで、紀元前8～前7世紀には、ギリシア人が本格的に地中海に進出して各地に植民市を形成したが、シチリア内では最大の植民市 **A** を建設した。シチリアは、古代ギリシア文化の重要な一翼を担うようになり、ペロポネソス戦争時にはポリス間の抗争に巻き込まれた。その後、ヘレニズム期に入ると、フェニキア人の植民^②

市であるカルタゴが勢力を伸ばしてきたため、新興のローマとシチリアで武力衝突した。これがカルタゴとローマによるボエニ戦争の発端となった。最終的に、カルタゴはシチリアから追い払われて、シチリアはローマの最初の属州となり、長らくローマの支配下に入った。

4世紀後半にゲルマン民族の本格的な移動が開始されると、シチリアはヴァンダル人、東ゴート人のあいつぐ侵入を受けた。しかし、6世紀後半に東ゴート王国が、東ローマ帝国（ビザンツ帝国）のユスティニアヌス帝によって滅ぼされると、シチリアは東ローマ帝国の領土となり、軍管区制（テーマ制度）がしかれた。次いで9世紀初めに、イスラーム勢力がシチリアにも押し寄せ、シチリアはイスラーム教徒が支配するシチリア首長国となった。11世紀になるとノルマン人がイタリア半島南部に侵入し、12世紀前半のルジジェーロ2世の時代に南イタリアとシチリア島をあわせた両シチリア王国が建設された。この国は地中海の王国として、この時代の国際政治に大きな影響を与えたばかりではなく、ギリシア・ローマ・ビザンツ・イスラーム・ゲルマン文化が混交する独特な文化を発信する場となった。その後、12世紀末に、王国は神聖ローマ帝国の皇帝位を継承したドイツの皇帝の支配下に入り、1266年からはフランスのアンジュー家が引き継いだ。1282年の「シチリアの晩鐘」と呼ばれる事件の結果、**B**王国の支配するシチリア王国となった。その後、近世期に入ってから、シチリアは諸権力の支配の交錯の場となって、スペイン・オーストリア・フランスの支配を次々と受けたが、19世紀後半に、統一したイタリア王国に編入された。

設問1 下線部①に関連して、クレタ文明、ミケーネ文明について述べた次の1～4の説明の中から、誤りを含むものを一つ選びなさい。

- 1 クレタ文明はミノア文明とも呼ばれ、クノッソスの宮殿建築で知られる。
- 2 クレタ文明は青銅器文明であり、イギリスの考古学者エヴァンズによって、遺跡の発掘がすすめられた。
- 3 ミケーネ文明は、南下したギリシア系のアカイア人によってペロポネソス半島のミケーネを中心に紀元前1600年ごろ築かれた文明である。
- 4 ミケーネ文明で使用された線文字Aは、イギリスのヴェントリスによって解読された。

設問2 下線部②に関連して、ペロポネソス戦争について述べた次の1～4の説明の中から、誤りを含むものを一つ選びなさい。

- 1 ペロポネソス戦争は、スパルタ中心のデロス同盟とアテネ中心のペロポネソス同盟の戦争となった。
- 2 アテネではペリクレスが病死し、デマゴーゴスと呼ばれる扇動政治家が出現して、主戦論を唱えた。
- 3 スパルタはベルシアの支援を受けて、アテネを降伏させた。
- 4 歴史家トゥキディデスはペロポネソス戦争に将軍として従軍し、厳密な記述の史書とされる『歴史』を著した。

設問3 下線部③に関連して、古代ギリシア・ローマを代表する著名な学者の中に、ボエニ戦争中、殺された人物がいる。この人物は次の1～4の誰か。あてはまる人物を一人選びなさい。

- 1 アルキメデス 2 エラトステネス 3 ポリビオス 4 プリニウス

設問4 下線部④に関連して、ユスティニアヌス帝について述べた次の1～4の説明の中から、誤りを含むものを一つ選びなさい。

- 1 ユスティニアヌス帝は、皇后テオドラと共に帝国の領土と権威の拡大に努め、北アフリカのヴァンダル王国も滅亡させた。
- 2 ユスティニアヌス帝は、トリボニアヌスら法学者を集めて、『ローマ法大全』を編纂させた。
- 3 ユスティニアヌス帝は、ハギア（セント）＝ソフィア聖堂を現在のイスタンブルに建立させた。
- 4 ユスティニアヌス帝は、貴族に軍役奉仕の代償として土地を与えるプロノイア制を実施した。

設問5 下線部⑤に関連して、11世紀から15世紀までの神聖ローマ帝国の皇帝が古いものから時代順に並んでいるものを次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 ハイน์リヒ4世 → フリードリヒ1世（シュタウフェン朝） → カール4世 → ジギスムント
- 2 フリードリヒ1世（シュタウフェン朝） → ハイน์リヒ4世 → ジギスムント → カール4世
- 3 ジギスムント → カール4世 → フリードリヒ1世（シュタウフェン朝） → ハイน์リヒ4世
- 4 カール4世 → ハイน์リヒ4世 → フリードリヒ1世（シュタウフェン朝） → ジギスムント

設問6 下線部⑥に関連して、フランスのアンジュー家はイギリスにも進出し王朝を創始したが、この王朝に関して述べた次の1～4の説明の中から、誤りを含むものを一つ選びなさい。

- 1 フランスのアンジュー伯アンリは、国王ヘンリ2世としてプランタジネット朝を創始した。
- 2 国王ジョンは、貴族の諸権利を保障した大憲章（マグナ＝カルタ）を承認させられた。
- 3 国王エドワード1世は、1295年、シモン＝ド＝モンフォールに模範議会を招集させた。
- 4 国王エドワード3世は、フランスの王位継承権を主張して、百年戦争をおこした。

設問7 下線部⑦に関連して、イタリア王国の統一に至る歴史について述べた次の1～4の説明の中から誤りを含むものを一つ選びなさい。

- 1 マッツイーニは1831年に亡命先のマルセイユで「青年イタリア」を組織し、革命運動を展開した。
- 2 トリノを首都とするサルデーニャ王国は、1848年に国王カルロ＝アルベルトの下で、憲法を制定した。
- 3 サルデーニャ国王ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世は、カヴールを首相に登用し、1859年の対オーストリア戦争に勝利した。
- 4 1861年にトリノで、ヴェネツィアと教皇領を含むイタリアの代表による国会が開かれ、イタリア王国の成立が宣言された。

設問8 に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 マッサリア 2 シラクサ 3 タレントウム 4 シドン

設問9 に入る最も適切な語を次の1～4の中から一つ選びなさい。

- 1 ポルトガル 2 カステイリャ 3 ヴェネツィア 4 アラゴン

Ⅲ 次のAとBの文章を読み、以下の設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

A 預言者ムハンマドは、メッカ（マッカ）の有力者たちからの迫害を逃れ、ムスリム（イスラームの信徒）とともにメディナ（マディーナ、ヤスリブ）に移ったが、その後、メッカを奪還してカーバを聖殿とし、ここを聖地とした。
①ムハンマドの死後、ウンマ（ムスリム共同体）は、ムハンマドの義父であるアブー＝バクルをムハンマドの代理人（カリフ）としたが、第4代カリフのアリーと対立したシリア総督ムアーウィヤは、シリアでカリフの地位につき、
②ウマイヤ朝を興した。以後、ウマイヤ朝のカリフは世襲化した。しかし、アリーとその子孫のみを支持する者たちはこれを認めず、後には、複数のカリフが並立する事態が生じることとなった。

設問1 下線部①に関し、これを「聖遷（ヒジュラ）」といい、その年がイスラーム暦（ヒジュラ暦）の紀元元年である。それは西暦では何年にあたるか。正しいものを一つ選びなさい。

- い 622年 ろ 630年 は 632年 に 642年

- 設問2 下線部②の「ウマイヤ朝」についての以下の記述のうち、明白に誤っているものはどれか。一つ選びなさい。
- い ウマイヤ朝は、西ゴート王国を倒したが、フランク王国とのトゥール・ポワティエ間の戦いに敗れた。
 - ろ ウマイヤ朝では、征服地の異教徒らに地租（ハラージュ）を課したが、末期には、アラブ人ムスリムにも課すようになった。
 - は ウマイヤ朝では、アラビア語が公用語とされ、イスラームの根本聖典である「クルアーン（コーラン）」が初めて編纂されることとなった。
 - に ウマイヤ＝モスクは、ダマスカスにある現存最古のモスクであり、キリスト教会の一部を転用したものといわれている。

B 神の啓示はアラビア語で授かったとするイスラームであるが、もともとアラビア語を話さない諸民族にも浸透していった。そのうち、イランでは、イスラームへの改宗者（マワーリー）やシーア派などがムハンマドの叔父の子孫であるアッバース家の革命運動に協力し、^③アッバース朝が建国された。またトルコでは、トルコ系遊牧民がイスラームに改宗しながら次々と中央アジアから西方に向けて移動し、奴隸軍人（マムルーク）や部族集団の形で勢力を強めていき、^④数々の王朝を開いていった。インドでも、インド洋交易等で活動していたムスリム商人の影響もあり、またガズナ朝やゴール朝の軍の数度にわたる侵入などもあって、イスラームが都市住民やカーストの下層などに及ぶところとなり、ゴール朝の将軍アイバクがインドで最初のイスラーム王朝を開いた後、^⑤いくつかのイスラーム王朝が興った。もっとも、インドにおけるイスラームとヒンドゥーとの関係は、後に^⑥パキスタンとインドの分裂へとつながっていく下地となった。アフリカにも広がったイスラームもまた、後にキリスト教との軋轢が生じるところとなった。

イスラームの広がりには、文化面では、各地にイラン＝イスラーム文化、トルコ＝イスラーム文化、^⑦インド＝イスラーム文化、^⑧スワヒリ文化などを生みだした。

- 設問3 下線部③の「アッバース朝」に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものはどれか。一つ選びなさい。
- い アッバース朝はタラス河畔の戦いで唐を破ったが、その捕虜の中にいた紙すき工がイスラーム圏に製紙法を伝えたとされる。
 - ろ アッバース朝は、全ムスリムの平等を実現したとして「イスラーム帝国」と呼ばれることがある。
 - は アッバース朝の第5代カリフのハールーン＝アッラシードは、ギリシア語の文献を集めてアラビア語に翻訳する機関として「知恵の館」を創設した。
 - に アッバース朝の大アミールに任じられたブワイフ朝では、軍人や官僚に俸給の代わりに一定の土地の徴税権を与える、イクター制が導入された。

- 設問4 下線部④のトルコ系の「数々の王朝」に関する以下の記述のうち、明白に誤っているものはどれか。一つ選びなさい。
- い カラハン朝は、中央アジアで最初のトルコ系イスラーム国家であり、緩やかな部族連合体であった。
 - ろ ガズナ（ガズニ）朝はイラン系のサーマーン朝の、ホラズム（ホラズム＝シャー）朝はトルコ系のセルジューク朝の、それぞれマムルークが建てた王朝である。
 - は セルジューク軍はアナトリアでビザンツ軍を破りシリアに侵攻したが、そのことが十字軍を引き起こす原因の一つとなった。
 - に ティムール朝は、ビザンツ帝国を滅ぼしたオスマン軍をアンカラ（アンゴラ）の戦いで破り、バヤジット1世を捕虜にした。

設問5 下線部⑤の「ムスリム商人」に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。一つ選びなさい。

- い ムスリム商人がインド洋交易で用いた三角帆の木造船は、ガレオン船と呼ばれる。
- ろ マムルーク朝の時代に国際貿易を担ったのは、カーリミー商人と呼ばれるムスリム商人集団であった。
- は マジャパヒト王国は、15世紀半ばに国王や支配階級がイスラームに改宗し、ムスリム商人と中国商人とを結ぶ東西貿易の拠点として栄えたが、後にポルトガルに占領された。
- に ムスリム商人は、陸路においても、キャラバンサライ(隊商宿)を結んで東西交易を行い、ここに、後に「絹の道」や「陶磁の道」と呼ばれる交易ルートを形成した。

設問6 下線部⑥のインドの「イスラーム王朝」についての以下の記述のうち、明白に誤っているものはどれか。一つ選びなさい。

- い ゴール朝のマムルークであったアイバクがインドで最初のイスラーム王朝を建て、その後マムルーク出身の王朝が続いたので、それらは「奴隷王朝」と総称される。
- ろ ハルジー朝は地租の金納化を実施したが、それは後のムガル帝国の統治にも受け継がれた。
- は 南インドのマイソール王国は、イギリスのインド征服に対抗して数度にわたる戦争を起こしたが、敗北した。
- に ムガル帝国のアクバルは、高官には禄位(マンサブ)に従って給与と保持すべき騎馬の数を決めるマンサブダール制をとった。

設問7 下線部⑦の「パキスタンとインド」の関係についての以下の記述のうち、明白に誤っているものはどれか。一つ選びなさい。

- い イギリスは、ヒンドゥーとイスラームを反目させて反英運動を分断することを意図して、1905年、ベンガル州を東西に二分することを含みインド統治法を制定した。
- ろ 当初は親英であった全インド=ムスリム連盟は、1916年に国民会議と協定を結び、民族運動に参入した。
- は インドとパキスタンは、カシミール藩王国の帰属をめぐる対立し、1947年と1965年に、両国間で戦争が起きた。
- に 言語問題から分離独立を目指す東パキスタンのムスリムらの運動をインドが支援したことから第3次インド=パキスタン戦争が起こり、1971年、バングラデシュが独立した。

設問8 下線部⑧の「インド=イスラーム文化」の例として適切でないものを一つ選びなさい。

- い ウルドゥー語
- ろ 『集史』
- は シク教
- に タージ=マハル

IV 第二次世界大戦以降のドイツと日本に関する以下の文章を読み、設問に答えなさい。解答はマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

1945年5月、ドイツは連合国に降伏し、ナチス政権は12年の歴史を閉じた。同年7月から8月にかけて行われたポツダム会議の方針に従って、ドイツは東方領土^aのかなりの部分を失い、西側へ国境を移した本土は、ソ連、アメリカ、イギリス、フランスに分割統治されることになった。多くのドイツ人が東方から追放され、着の身着のまま本土を目指した。彼らの中には、ヒトラーが政権を掌握する以前から長きにわたってその地に暮らしていたドイツ人も含まれていた^b。チェコスロヴァキア、ポーランド^c、ハンガリー、A、Bなどから追い出され、ドイツ本土に強制的に移住させられたドイツ人の数は、1000万人をゆうに超すといわれている。他方、ナチスによるユダヤ人の大量虐殺の被害者の多くが、ポーランドやソ連などに集中している^dことから、ナチス・ドイツの支配と敗北は、東欧諸国の人口構成を大きく塗り替えた。

19世紀後半以降、西洋列強と肩を並べるように帝国主義の時代を生き、第二次世界大戦では枢軸国として戦った日本もまた敗戦後、大規模な人口移動を経験した。大東亜共栄圏^eという構想を打ち立て、アジア・太平洋戦争^fを展開した日

本は、1945年8月の無条件降伏をもって海外領土を失い、本土はアメリカ軍を中心とする占領下に置かれた。1945年末からアメリカが主導する形で残留日本人の引き揚げに関する議論が始まり、軍人約350万人、民間人約300万人に及ぶ日本人の引き揚げ事業が本格化した。

設問1 下線部 a について、ナチス・ドイツの侵略を示す正しい時系列を一つ選びなさい。

- イ オーストリア併合 ⇒ ポーランド侵攻 ⇒ 独ソ不可侵条約
- ロ オーストリア併合 ⇒ ミュンヘン会談 ⇒ チェコスロヴァキア解体
- ハ 独ソ不可侵条約 ⇒ ポーランド侵攻 ⇒ チェコスロヴァキア解体
- ニ 独ソ不可侵条約 ⇒ ミュンヘン会談 ⇒ オーストリア併合

設問2 下線部 b について、中世以降のドイツ人の東方植民に関する以下の説明のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- イ ドイツ騎士団はバルト海沿岸地域へ進出してドイツ人の入植を進める一方、スラヴ人のキリスト教化を行った。
- ロ バルト海沿岸にドイツ人入植者を誘致して建国されたプロイセンは、18世紀半ば、フリードリヒ2世の治下で王国へと昇格した。
- ハ ハンガリーのズデーテン地方には、ハプスブルク帝国の奨励政策により、ドイツ人手工業者が入植した。
- ニ ドイツ出身のエカチェリーナ2世は、ヴォルガ川流域にあるコーカンド=ハン国を併合して多くのドイツ人を入植させた。

設問3 下線部 c について、ポーランドとドイツに関する以下の説明のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- イ 18世紀末、プロイセンはオーストリア、ロシアと手を結び、ワルシャワ大公国の建国に介入した。
- ロ コシューシコ（コシチューシコ）は1848年にベルリンで起こった革命に触発され、ポーランドの民族運動を先導した。
- ハ ドイツが敗北した第一次世界大戦後のパリ講和会議で、ポーランドの独立は国際的に承認された。
- ニ 軍港都市ダンツィヒはナチス・ドイツによる併合を免れ、戦後は東ヨーロッパ相互援助条約に基づく安全保障機構の本部が置かれた。

設問4 A と B について以下の説明を読み、それぞれに入る国名の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

ドナウ川下流に位置する A は、1878年のベルリン条約で独立が国際的に承認された。第二次世界大戦後はソ連の社会主義圏に組み込まれたが、1989年の革命によって大統領が処刑され、独裁政権が崩壊した。

B は、1941年にナチス・ドイツとイタリアの侵略を受けたが、バルチザンによって解放され、1945年に連邦人民共和国を宣言した。ソ連とは距離を置いた独自の社会主義路線を歩み、1948年にはコミンフォルムから除名された。

- イ A ブルガリア B ウクライナ
- ロ A マケドニア B ユーゴスラヴィア
- ハ A ウクライナ B アルメニア
- ニ A ルーマニア B ユーゴスラヴィア

設問5 下線部dについて、ナチスの反ユダヤ主義に関する以下の説明のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- イ ヒンデンブルクは大統領緊急令を発し、アウシュヴィッツにおける強制収容所の建設を命じた。
- ロ 1933年に起こった国会議事堂放火事件は、犯人がユダヤ人であったことから、反ユダヤ主義のプロパガンダに利用された。
- ハ ヒトラーの政権掌握後、ニュルンベルク法によってユダヤ人は公民権を奪われた。
- ニ ナチス・ドイツ軍のポーランド侵攻以降、レーム率いる親衛隊により、大規模なユダヤ人の連行が繰り返された。

設問6 下線部eについて、枢軸国を構成したドイツ、イタリア、日本に関する以下の説明のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- イ 日本とドイツは、ソ連に対抗するため防共協定を結び、1937年にはこれにイタリアが参加した。
- ロ ベルリン＝ローマ枢軸によって、ファシスト党党首ムッソリーニは首相に就任し、軍事から司法にわたるすべての権力を掌握した。
- ハ ドイツはアフリカへの勢力拡大にも関心を示し、かつての植民地であるナミビアへイタリア軍とともに進軍した。
- ニ 太平洋戦争の開始によって日本は日ソ中立条約を結び、日独伊三国同盟は実質上、崩壊した。

設問7 下線部fについて、日本軍の占領が及ばなかった地域を一つ選びなさい。

- イ ビルマ ロ セイロン島 ハ マレー半島 ニ シンガポール

設問8 下線部gについて、最も適切な説明を一つ選びなさい。

- イ 外務省が行っていた引き揚げ事業は、韓国による北朝鮮侵攻で始まった朝鮮戦争によって難局を迎えた。
- ロ 中国には多くの日本人孤児が残留し、田中角栄と鄧小平が調印した日中共同声明以降も帰国の道を閉ざされた。
- ハ 満州事変を契機に成立した満州国では、ソ連軍の侵攻によって多くの民間人が犠牲となり、引き揚げの過程でも命を落とす者が少なくなかった。
- ニ 引き揚げ船が入港した町は大量の引き揚げ者で混乱したため、創設されたばかりの自衛隊が事態の収拾にあたった。

V 17世紀半ばに制定され19世紀半ばに廃止されたイギリスの航海法について、なぜ制定され廃止されたのかをそれぞれ当時の政治と経済の情勢に関連づけながら、以下の語句をすべて用いて、250字以上300字以内で説明しなさい。なお、句読点、数字は1字に数え、指定の語句には必ず下線を付しなさい。

選挙法改正 重商主義 自由貿易 中継貿易

(以下 余白)

